

あそびかけ



1、2年生110名が選手団サポートボランティアに参加！

平成30年10月13日から15日の3日間、第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会 2018」が福井県で行われました。本学の1、2年生110名は、敦賀市総合運動公園プールで行われた水泳競技の選手団サポートボランティアに参加しました。学生たちは、51の県・市の選手団に約2名ずつ配置され、担当となった選手団の移動介助、スコア管理、弁当・ドリンク運搬などの活動を行いました。また担当県・市のマスコットキャラクターをあしらった応援横断幕を作成し、一生懸命応援していました。選手の方々と積極的に交流し、3日間得たものは大きかったようです。

〔2年 西澤江里 1年 中上柚香〕

私たちは仙台市を担当させていただきました。主な活動内容としては、選手の方々の補助、応援、お弁当や飲み物の配布などです。競技がない時間は選手の方々と積極的にコミュニケーションをとり、短い時間でしたが、とても仲良くなりました。この活動を通して、周りを見て「今自分に何ができるのか」を考え、行動することを学びました。また、様々な環境で努力されている選手の方々を見て、勇気や希望をいただき、視野が広がり、とても楽しく充実した3日間でした。

カナダ語学留学

(平成30年9月5日～9月26日)

今年度も平成30年9月5日から9月26日までの約3週間、カナダケローナにあるオカナガン大学 (OKANAGAN COLLEGE) において語学研修を実施し、本学2年生の18名が参加しました。午前中は大学での英語の講義を受講し、午後は医療・福祉施設を訪れカナダの医療・看護を学び、またフリーな時間も持つことができました。参加した学生は、英語での会話に最初は四苦八苦しながらも、徐々に慣れ日本では経験できないようなことを多く学び、充実した語学留学となりました。

学事



ケローナ総合病院の前で

カナダ留学を終えて

カナダへ行くにあたって、英語がほとんど話せない私はとても不安を感じていましたが、実際にカナダに行ってみると、その不安は払拭されました。カナダ人は親切な人ばかりで、話が理解できいと感じると、すぐに簡単な英語に言い換えたりゆっくり話してくれたり、翻訳機を使ってくださったりしたので、積極的にコミュニケーションをとることができました。実際に話せたらもっと楽しいだろうと感じたので、英語へのモチベーションを上げるきっかけにもなりました。カナダは素晴らしいところでした。

(田代千晶)

カナダ留学を終えて

3週間のカナダでの語学研修を通し、英語を学ぶだけでなく、現地の人々の暮らしや多国籍国家特有の先住民の生活も知ることができました。アクティビティではオカナガンレイクのクルージングやワインセラー見学など、たくさんの体験をしました。楽しみながら英語を勉強できるととても良い機会だと感じました。生活の一部として英語を話すため、日本で勉強するよりも数倍身に付けることができたと思います。

(片山夢蘭)



講義風景



医療施設スタッフとの交流



大学の前で研修修了証をもって



街中での1コマ



オカナガンレイクのクルージング



ワイナリー見学



カンガルーの赤ちゃんと一緒に



先住民の生活を学ぶ

🇨🇦 カナダ留学を終えて

カナダ留学は私にとって素晴らしい経験になりました。私は英語が得意ではないので、ホストファミリーとコミュニケーションをとることができるのかとても不安でした。しかし、ホストファミリーは私の英語を注意深く聞いてくださり、私が理解しやすいような簡単な単語を使って話してくださいました。私は日が経つにつれ、相手の言い回しが少しずつ理解できるようになり、簡単な会話なら楽しく行うことができました。私はカナダ留学を経験したことにより、英語をもっと話せるようになりたい、様々な外国に行って、交流を広めたいと思うようになりました。

(武藤可歩)

福井しあわせ元気国体に学生ボランティアで参加 (平成30年9月29日～10月9日)

福井しあわせ元気国体のボランティアにおいて、私はシャペロン（ドーピング検査通達員）の経験をさせていただき、日本のトップレベルの選手たちと話すことができました。選手たちのこれまでの努力を見習い、自分も頑張らなければいけないという気持ちになりました。また、選手と監督、チームメンバーが激励し合っている姿を見て、スポーツの素晴らしさを体感し、スポーツは1人でできるものではなく、多くの人に支えられてできることだと思いました。シャペロンを通じて人の温かみに触れることができたのと同時に看護師が活躍できる場は多くあるということも知ることができ、とても良い経験となりました。

[4年 渋谷由莉]



2018 海凜祭

(平成30年10月28日)



第5回海凜祭を無事に開催できたことをとても嬉しく思います。今年のテーマは「結～人々との出会い～」でありました。テーマにもありますように、敦賀高校書道部の皆さんによるパフォーマンスやハロウィン企画を通してより地域の方々と繋がる機会となったのではないかと思います。多くの地域の方々がご来場いただき、またステージ企画にご協力いただきとても賑やかな1日となりました。これもひとえに地域の皆様、保護者の皆様のおかげであります。ありがとうございました。

多治見夏希（第5回海凜祭実行委員長）



第2回 敦賀市立看護大学研究報告会

(平成30年10月20日)

「地域・在宅ケア研究センター」の事業として、平成30年10月20日（土）に「第2回敦賀市立看護大学研究報告会」を開催したところ、47人の方に参加していただきました。この事業は、研究成果や実践活動の報告を通して、多職種が連携を深め、看護や地域医療保健福祉活動の質の向上を目指しています。医療機関からは、重症心身障害児の排便コントロールや透析患者の看護などに関する4演題の報告をいただきました。大学からは、現在取り組んでいる研究紹介と日本国内外で発表した研究成果5演題報告しました。発表内容に対して「具体的にどんな反応だったのか教えてほしい」「声かけが素晴らしい」など活発な意見交換がなされました。今後は、学生や院生の研究報告も視野に入れ、多職種間においてますます切磋琢磨できるような報告会にしていきたいと思っております。



オープンキャンパス

(平成30年7月22日・11月23日)



看護学演習体験の様子(基礎看護学)



看護学演習体験の様子(救急・災害看護学)



看護学演習体験の様子(老年看護学)

今年度、本学ではオープンキャンパスを2回(第1回:平成30年7月22日、第2回:平成30年11月23日)開催し、あわせて約300名と例年を大きく上回る方のご来場をいただきました。福井県内にとどまらず、北陸各県、全国各地から参加された方もおられました。

当日は、本学の特色やカリキュラム、入学試験について説明や実際の講義を体験する「模擬講義」では、(第1回:看護の仕事って何をすること?、第2回:病院と子ども~インフォームド・アセントって知ってますか?~)でした。その他、「看護学演習体験」、「進学相談コーナー」、「学生生活コーナー・カナダ留学コーナー」、「学内ウォークラリー」などのプログラムを実施いたしました。

参加者からは、「学生さんや先生方が親切に笑顔で接して下さったのが印象的でした」、「模擬講義や各種体験も分かりやすく勉強になりました」、「この大学に行きたいという気持ちが強くなりました」などのお声をいただくことができ、本学を大変身近に感じていただけたようです。



学生生活相談コーナーの1コマ



学内ウォークラリーの1コマ(図書館)



大学説明会での参加者の様子

(平成30年6月30日～7月1日)

高浜町「和田de路地祭」に本学学生が参加してきました!

本学学生8名(4年生4名、1年生4名)が、県内5大学で行っている地方創生推進事業(COC+)の中の「まちづくり分野」の活動の一環として高浜町和田地区で行われた「和田 de 路地祭」に参加してきました。本事業では5大学の学生が、それぞれアイデアを出し、“地域活力の向上”活動に取り組みました。4年生は看護実習や就職活動の合間を過ごし、地域の魅力発信に取り組みました。1年生は“授業とCOC+を両立する”という意気込みでアイデアを出し、他大学との協働で“和田風 cafe”を行いました。6月30日の長街宴では、雨天による会場変更もありましたが、学生間の連携でスムーズに進行でき、翌7月1日は晴天の中、“和田風 cafe”では、準備したメニューが午前中に完売する盛況ぶりでした。引き続き、本学では敦賀市をはじめ嶺南地区全体で本事業に今後も取り組んでいきたいと考えています。



※地方創生推進事業(coc+)とは…県内5大学が、福井県および産業界・医療界等と一体になって、地域の持続的な発展とイノベーションを推進する担い手を育てようとする事業です。(詳細は<http://www.allfukui-cocp.jp/>をご覧ください)

救急・災害看護研究センター〈2018年活動報告〉

救急・災害



平成29年度に救急・災害看護研究センターが設置されました。場所は管理棟1階にあります。設置から1年が経過し、平成30年の今年度は救急や災害に関する研究への取り組みだけでなく、新たに地域貢献に積極的に取り組みました。その取り組みの1つには、敦賀美方消防組合と連携し、消防団機能別班(通称、学生団員)として学生15名が、小中高等学校の生徒や国体関係者(ボランティアなど)への救急法の講習会を行いました。また原子力センターあっとほうむと連携し、イベントに参加し、来場された子どもさん達に対して聴診器を用いて心臓の音を聴く体験や救急法の指導を通して、命の尊さを伝える機会になりました。11月の敦賀市総合防災訓練には学生10名が参加し、災害時の清拭や乳児のオムツ作りなどについて紹介しました。大学での救急・災害看護学で学んだことを地域住民、市民に伝えることができたこと、地域貢献が目に見える形で行われたことが今年度の成果であったかと思えます。

今後も、地域のニーズに応えられる活動を強化・発展させていきたいと考えています。

学生生活

大学院

大学院に入学した動機は、大学の先生と看護について議論をさせてもらえる機会を得て、自分を見つめ直したいと思ったこと、また、看護師の役割を考え看護師として介入するための知識を深めたいと思うようになったことがきっかけです。

大学院は実務を理論化し、根拠を持って介入できるように学べる場だと感じています。看護師として疾患の理解を深めるだけでなく、幅広い知識や雑学がとても重要であることを気づかせてもらっています。

講義して下さる先生方の話はとても楽しく興味を引く話ばかりです。今まで狭い範囲の中でいたことを実感しつつ、いろいろな方々との交流の中で幅広い視野や考えを持てるようになりたいと思っています。 (江南里美)



学生生活

助産学
専攻科



私が本学の助産学専攻科を志望した理由として、少人数で個別指導が受けられる点が魅力的であったことです。

学生生活はとても楽しく、専攻科生全員で日々助産学の知識・技術を学んでいます。休日は旅行に行ったり、休み時間には食事に出かけたりと、メリハリのある生活を送っています。

助産師を目指している方は、ぜひ敦賀市立看護大学へ!

(栗山日菜子)

学生の活動

陸上部

私たち陸上競技部は現在の部員数は3人で活動しています。私たちが入学した当時、陸上部は無く、まず部を作り始めるところからのスタートでした。活動は主に放課後です。敦賀気比高校の陸上部にお邪魔して練習させていただいています。また土日には大会の審判もしています。私たちが大学でも陸上競技を行うことが出来たのはたくさんの人の助けがあったからです。色々な人との出会いに感謝し、個々のペースで陸上競技というものに向き合うことを目的に私たちは活動します。



敦賀市立看護大学 ジャーナル

敦賀市立看護大学は敦賀市、嶺南地域における「知」の拠点としてその機能を果たすべくジャーナルをホームページで公表しています。

◎本ジャーナルが幅広く医療に関心ある方々のお役にたてればと考えています。

平成30年度 市民公開講座等実施状況 (抜粋)

本学では、さまざまな団体からご依頼をいただき公開講座等を実施しております。今年度の実績を抜粋して掲載します。

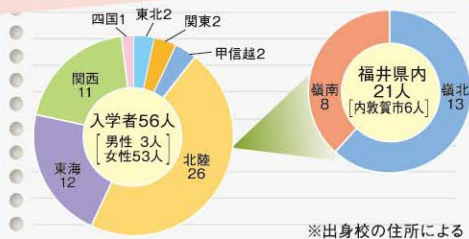
講師派遣含め 計29件【県内24(市内11)、県外5】 ※9月末現在、開催日順に掲載(予定を含む)

講座テーマ名等	講師	実施団体	実施場所
生命の尊さ・奉仕の尊さ	高島 麻美	国際ソロプチミスト敦賀	プラザ萬象
生活習慣病としてのがんにならないために	喜多 義邦	美浜町	美浜町保健福祉センター
からだのリズムと睡眠	林 愛乃	つるが男女共同参画ネットワーク	敦賀市立看護大学
認知症にならないための脳の体操	中堀 伸枝	南越前町教育委員会	南条文化会館
ストレスとの上手な付き合い方	杉山由香里	南げんき会	敦賀市南公民館
地域で共に暮らし共に働く社会を目指して	長井麻希江	敦賀市地域自立支援協議会	二州青松の郷
元気づくりコース講師「訪問時の倫理」	家根 明子	敦賀市(いきいき生涯大学)	敦賀市福祉総合センター
元気を呼ぼう(予防)!～転ばない体づくりを目指して～	家根 明子	鯖江市高年大学	鯖江市高年大学 体育館
くすりの常識・非常識、昔のくすり・今のくすり	山崎 弘美	美浜町	美浜町佐田公民館
あなたの「足」お元気ですか?	鈴木 隆史	中郷地区老人会	敦賀市中郷公民館
高齢者の特徴・特有の状況、高齢者の安全性について	鈴木 隆史	鯖江市社会福祉協議会	アイアイ鯖江健康福祉センター
紛争地域での人道支援活動	高島 麻美	敦賀ロータリークラブ	敦賀市民文化センター
元気づくりコース講師「生活支援の実際」	木谷 尚美	敦賀市(いきいき生涯大学)	敦賀市福祉総合センター
心のいきいき健康講座 ～ストレスをためない生き方をしよう～	長井麻希江	小浜市教育委員会	小浜市中央公民館

上記の他に、自治体などからの委員等のご依頼も多数いただいております。

入試関連情報

平成30年度入学生の 地域別内訳



科目等履修生・ 聴講生の募集について

敦賀市立看護大学では、学生たちと一緒に学ぶことができる科目等履修生・聴講生を募集しています。詳細は本学ホームページの「地域・一般の方へ」のページをご覧ください。

図書館だより

敦賀市立看護大学附属図書館は学外の方もご利用いただけます。

利用できる方 ◎敦賀市に在住又は勤務する18歳以上の方
◎その他附属図書館長が適当と認める方

開館日時 ◎通常時 9:00～19:00
◎休館日 土曜日及び日曜日 国民の祝日
※詳細は本学のホームページを参照してください。

貸出 ◎図書は館外貸出が可能です。ただし、雑誌・新聞・視聴覚資料・禁帯出資料を除きます。
◎館外貸出には、「学外利用者証」が必要です。
※「学外利用者証」の発行を希望される方は、現住所の分かる身分証明書(運転免許証・保険証・職員証)をご持参の上、カウンターへ申し出てください。



◎貸出冊数: 5冊以内
◎貸出期限: 2週間以内

返却 ◎図書は、必ず返却期限内にカウンターへご返却ください。
◎1冊でも返却期限を過ぎた図書があると、新たに図書を借りることができません。

学生食堂のご案内

敦賀市立看護大学の学生食堂は一般の方もご利用いただけます。リーズナブルなメニューが揃っていますので、近くにお立ち寄りの際は、ぜひご利用ください。

営業時間 平日11:30～14:00(13:30ラストオーダー)

メニュー ○日替りランチ500円(学内者400円)
○アラカルトランチ500円(学内者400円)
○日替わり麺350円(学内者250円)
○カレー450円(学内者350円) など



※営業時間、メニューは平成30年度のもので、
※夏季、年末、年度末は長期休業する場合があります。

編集後記

ここに大学ニュース5号をお届けします。開学以来5年目に入り、本年3月に初めて卒業式を挙行することができました。国家試験を終えた卒業生の多くは医療機関へ就職し、戸惑いながらも充実した日々を送っていることを願っています。4月からは新たに大学院生と助産専攻科の学生を迎え、これに合わせて図書館の開館時

間が学生は夜10時までとなり、学生の勉学をサポートする体制の充実が図られています。さらに10月の全国障害者スポーツ大会においては本学の1,2年生約100名がボランティアとして参加しました。地域医療とともに本学がますます発展するように、今後とも皆様のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。(編集委員長 山崎弘美)